

# 任意繰り入れ続けよ

## 国保府内一本化で瀬戸議員

### 大阪市議会決算特別委員会



瀬戸一正団長

一本化問題を取り上げました。

2016年度大阪市一般会計決算を審議する大阪市議会決算特別委員会が7日開かれ、日本共産党の瀬戸一正団長が質問の中で松井府政が狙う国民健康保険(国保)の府内

瀬戸氏は、大阪市のシングルマザー世帯(母親40歳、未成年の子ども2人)の平均総収入(年間)は184万円、所得(同)は110万円だが、国保料年22万円、国民年金保険料18万円に上り、家賃を支払うと残りは72万円、毎月の生活費は6万円だと指摘。「子どもは1日2食で、1食は学校

給食、あとの1食はご飯とふりかけ。これ以上値上げすれば市民生活が成り立たなくなるといのが、今の国保料の水準だと実態を示しました。

府が10月に試算した大阪市の標準保険料額は、保険料の負担軽減で市が独自に行ってきた任意繰り入れ(29年度136億円)を除いて計算しているため、16年度の保険料額に比べ1人当たり7870円増となります。瀬戸氏は吉村洋文市長に、「国保加入者の保険

料負担が過酷だと認識するなら、負担軽減のために任意繰り入れを継続し、府に対しても市町村が独自に任意繰り入れができるよう、要請すべき」と迫りました。

吉村氏は「府の考えに沿った対応をすることが必要」と答弁しました。

瀬戸氏は「任意繰り入れをなくしていくと言っていることと同じだ」と指摘。府は標準的な額や考え方を示すことはできるが、最終的に決めるのは保険者である市町村だと強調し、市民に高い国保料を押し付けようとする吉村氏を批判しました。